一夕
日刊
磐城時報

編輯兼發行人 印刷人 福島縣石城郡平町紺屋町十四 岡田弘成
印刷所 福島縣石城郡平町紺屋町十四 加藤活版所
發行所 福島縣石城郡平町紺屋町十五 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

平水道擴張工事 七萬圓の大減額
委員會は感情に捉はれたか
町民には迷惑至極な決定

平町水道擴張工事は內務、大藏兩省から工費三十三萬五千六百五十圓の査定をうけ工事の施行が認可されたので平町では去る八月二十三日平町會を召集し三十三萬五千六百五十圓の工事費を附議し、町會では十一名の委員をあげ二十五日から委員會で審議中であつたが三十一日委員會が漸やく終了した、その結果は、原案三十三萬五千六百圓より六萬一千百圓を減じ二十六萬四千五百五十圓に修正されたが修正減額した重なるものは

事務所費九千八百七十六圓減
工事費六萬一千百六十六圓減
公債利子五十八圓

等である、來る三日午後一時から町會本會議を開き附議する事になつたが、今回の委員會修正に對し某町會議員は感想を左の如く語つた。

今回の修正は感情に走つてした觀があり、町民にとつては負擔增加となる恐れこそあれ輕減を見るやうな事は絶對にない、何となれば內務、大藏兩省では既三十三万五千余圓を査定し國庫補助、縣費補助もその四割五分即ち國補八万八千圓、縣補七萬二千圓合計十六萬圓を承諾したのである。勿論國庫並に縣補助は豫算に對して與へるものでなく決算に於て四割五分を支給するものであるが、豫算を二十六萬四千五百五十圓と決定すればその中豫備費一萬圓を除いた二十五萬四千五百五十圓の四割五分の補助をするわけであるから最高で十一萬四千五百圓の補助しか得られぬ事となる、委員會の修正は現在の物價を標準とした修正でこの工事は向ふ三ヶ年に跨がる仕事であるから物價が騰貴し若くは天災のため工事が增加するやうな事になればその追加豫算は結局全部町民負擔となり補助は一文も得られぬ事となる。公平な委員會であつたならば大藏、內務兩省から査定された三十三萬五千六百五十圓を豫算として議決しておいて二十六萬圓四千五百五十圓は所謂實行豫算とし極力工費節減を計つてその程度で工事完了するやうにすべきであつた、然るにも拘はらず七萬一千圓の大減額を敢てした委員會は感情に捉はれてゐたと見るより外なく、萬一その工費で工事が不可能になつた際委員は町民に對し面目を失ふ事になるわけであると語つた。

石城郡視察
內務部長

金森內務部長は比佐代議士と共に三十一日四倉築港を視察した後泉村志賀擇之助氏のメロン栽培並に鮫川疏水の水源地附近を視察して平潟町に泊した。

平青物市場
敷地を變更

平町佐藤作平外數氏に認可された青物市場敷地は平町紺屋町十四番地であつたが、近く開市の都合上狹隘なので平町大町馬場東方に移轉する事なり位置變更願を提出した。

▲梨品評即賣
石城郡梨果品評會は七日平町平警察署會議室に開くが、出品点數は三百余点である。

▲接客業者診斷
平町飯野、平窪一町二ヶ村の接客業者の健康診は一日平警察署で行つたが、醫師は羽岡、酒井、星の三氏で、受診者千三百名であつた。

平遞友勝つ
對磐中野球戰

平遞友クラブ對磐城中學校の野球試合は三十一日午後一時から磐中球場で擧行したが、六對三で平遞友快勝した。

理髮組合の紛擾を 荒井署長が調停
二日まで調停案に解答

平町田町理髮店宮川幸吉氏が平驛倶樂部に月給で雇はれた形式で割引理髮してゐることから起つた平理髮組合の問題は宮川氏を除名する迄に至り組合統制の立場にある荒井平警察署長は心痛した結果組合間の策動を排し組合全体の意向を徵すべく全組員を平署會議室に召致し三十名の出席者に對し

一、宮川を鐵道傭と認むるや否や
二、理髮料金に等級を附すべきか否や
三、組合費に等級を附すべきか否や

の三問題を提示し投票によつて回答を求めたところ、一はまとまらず、二は等級を附すべしと答へたのが二十名、反對九名、無効一名、三は等級を附すべしが二十五名、反對が五名で組合幹部の主張である料金均一論が畧敗北したので、同署では近く等級實現について具体的方法を講ずるものと思はれる。尙ほ宮川氏の問題については荒井署長は、仲裁案として

一、宮川幸吉方から平鐵道理髮所に派遣する理髮師は一名とする事
一、鐵道に於て二十錢の理髮券を發行し調髮する理髮店は鐵道員の隨意とする事

を提出したが、之に對し組合では明二日までに回答する事になつた。組合の意嚮では荒井署長の熱心な調停案でもあり結局承諾するものと見られてゐる。

火葬場の灰から金歯

平町鍛冶町田澤春吉（五三）假名はこれまで火葬場で捨てる灰をひそかに買つて神谷村地內の夏井河原でこれをさらし金の入齒その他貴金族類を集めて甘いしるをすつてゐたが、同村民に騷かれ三十日平署に呼だされ火葬場關係者も呼ばれる筈。

濱三郡木炭同業組合で 組合長以下の大減俸
きのふ評議員會で決議

濱三郡木炭同業組合評議員會は三十一日午前十一時から平町事務所に開き、不況對策について協議したが、役員評議員、代議員理事、書記の旅費は管內濱三郡內は汽車賃二等を三等に、宿泊料は從來の一割減とし、組合長以下役員の俸給は各自が組合に寄附する形式をとり値下げを斷行する事になつた結果、早川組合長は年額百圓が三十五圓、檢査員月俸平均四十二圓七十錢を三十八圓五十錢、指導員月俸平均四十八圓七十錢を四十三圓に改め、その按配は理事に一任する事、理事八十圓を六十八圓に、正副組長の報酬七十圓並に五十圓を三十五圓及び二十五圓に半減する事に決定した、これによつて同組合では一ヶ年八百余圓だけ節し得る事となり、檢査員、指導員三名を減員とする件は中止した。

大盡遊びの後 酌婦を毆打

石城郡湯本町入山炭礦五坑電氣職工伊藤七郎（五〇）は三十日午後九時頃現金五圓余を懷中して平町南町飲食店千代野屋に登樓抱へ酌婦全部を呼んで大盡遊びをなして、いざ勘定となるや五圓では何の役にも立たないのでヤケになつて伊藤は居列ぶ酌婦を片つぱしから毆打大亂暴を働いたので平署に檢束され拘留に附された、三十一日醉の醒めた處を齋藤警部からお目玉を頂戴して引下つた。

三井炭礦
長屋取こはし

石城郡磐崎村大字藤原三井炭礦長屋の解雇坑夫殘留者は三十日までは僅五名となり、職員も現場監督二名を余すのみとなつたので、社宅、長屋等は目下取壞し中で、一日からは電燈も全部消燈し、請願巡査も廢止する事となつた。

相馬支局通信

叙位
縣立相馬農蠶學校長佐藤弘毅氏は今回從五位に叙せられた。

▲消防組頭更迭
相馬郡磯部村消防組にては佐藤前組頭辭職の爲め今回大久保久吉氏就任、同郡大野村組頭は田中庄藏氏に決定した。

▲立木公賣
相馬郡原町營林署所轄內、石神村、金房村、上眞野村、飯曾村、大野村新舘村、大須村、山上村等地內立木賣拂口數三十九、內用材四、二八立方米、薪材八、七八九立方米の公賣を來る十七日原町營林署に於てなす筈、詳細は同署に紹介せらるべしと。

▲屑繭整理講習會
相馬郡蠶絲同業組合主催屑繭整理講習會は郡內各村左の日割によつて開催する事となり、講師は菅野とき女なりと。
▲九月一日より五日間眞野村▲九月十日より五日間立木村、▲二十二日より五日間山上村、▲二十九日より十日間石神村、▲十月一日より五日間新地村。

▲青年團の海外視察
大日本聯合青年團の海外視察旅行は過般縣に於て參加募集中の處應募者三名あり愼重調査の上相馬郡八幡村但野正巳氏推薦された、主として支那滿鮮各地。

▲檢査員講習會
相馬郡中村町穀物檢査支所にては一日から五日間新任檢査員の講習會を開催。

一の井で 九月中の奉仕

平町田町旗亭一の井では九月一日から左の如く松、竹、梅に區別し奉仕的の安値で客を呼ぶ事になつた。
▲松、酒、料理、藝妓五本つき（七圓）▲竹、同（五圓）
▲梅同（二圓五十錢）

▲藥師堂の祭禮　相馬郡石神村大木戸の藥師如來及び鹿島町右田川端藥師は三十日宵祭り三十一日祭禮を執行したるが、參詣者非常に多かつた。

電氣料に就て

一辯護士生

極めて當然のことを當然行つたに過ぎないのだが、縣下の各地にさきがけて、斷行したところ大に話せる、とだけでは籔から俸でわからないかも知れぬから、以下説明する

川俣電氣會社は時代の趨勢に鑑み、需要家の負擔輕減をはかる意味から、電球の光力減退したもの、自然のシン切れのものは、無料で取換へる東京あたりでは何にも珍しいことではないが、福島縣下では、電球の光力が減退したのでも、自然にシン切れとなつたものでも、はた粗忽で電球を破壞したのでも、需要家の負擔の公平を期する好意上一列一体に電球引替といふものを徴收してゐる、全体我々が電燈會社に電燈の設備を要求し、毎月電燈料を支拂ふのはなにも室内に電燈器具をブラ下げて滿足して居るのではない、電球を取付けて契約した照明の料金拂つて居るのだ

無電や、電送寫眞が發明せられた今日でも、まだ電球無しの照明裝置が發明せられぬ以上、電燈會社はその契約による照明を電球無しで如何にして供給するか、換言すれば電球無くては電燈料を要求する權利が無いのである。

斯う觀てくると、會社では料金を請求する唯一の器具たる電球料をも需要家に負擔せしめて居るので、甚だ蟲のよい話といはれても返す言葉はなからうと思ふ。偶々川俣電氣會社が電球の料金を需要家に負擔せしむるの不合理を痛感して、斷然會社の負擔改にめたのは、けだし當然のことを當然行つたに過ぎないが、兎に角會社の大英斷として大いにお太鼓をたゝく價置がある、どこかに耳や目の痛い會社はありませんか。

一の井
九月中の御勉强!!
梅　酒（丼付）一本　料理二品　藝妓二本　二圓五十錢
竹　酒（丼付）三本　料理二品　藝妓四本　五圓
松　酒（丼付）五本　料理三品　藝妓五本　七圓
磐城平
電話一六七番
一の井

貸切は
他の追從を許さざる
破額最低料金の
磐城タクシー……へ
平驛前
磐城タクシー
電話四五四番

ラヂウム温灸器
胃腸病の必治法
二貫や三貫らく〳〵肥る世界的健康法
特約販賣
治療部
福島縣平町五丁目二八
志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九
産婆　關口悅子
「温灸治療法」百三十頁の美本無代進呈

法授院新盆に相當り候へども時節柄提灯その他の御贈與等甚だ勝手ながら御辭退申上候間惡しからず御承引被下度願上候
平町古鍛冶町
水野虎三郎

謹告
亡兒昌新盆に相當候へども甚だ勝手乍ら一切の御贈與一切御辭退申上度此段御願申上候
平町字三丁目
山田勇太郎

棟岳院今年新盆に相當り候處時節柄提灯、供物其の他御贈與御辭退申上度く、甚だ勝手乍ら以紙上御通知申上候
平町字一丁目
飯田近治

天瑞院新盆に相當り候へ共時節柄提灯其の他御贈與御辭退申上度く甚だ勝手乍ら以紙上御通知申上候
平町田町
松月堂　金子重次

吉田眼科病院
平町紺屋町
電話六八番

寶鐸院新盆に相當り候へ共提灯、其の他の供物御贈興を一切御遠慮申上候間御諒承願上度失禮乍ら以紙上謹告仕候
平町字田町
森本盛一

謹啓照淸院新盆に相當り候へ共故人の遺志に依り提灯供物等一切乍失禮御辭退申上候　敬具
昭和五年舊七月
松本亀吉

亡妻新盆の處時節柄提灯其他の御供物一切乍失禮御辭退申上候
平町
市原卯太郎

謹告
亡父重雄儀新盆に相當り候へ共緊縮の折柄供養提灯並に供養料其他一切の御贈與を甚だ勝手がま數候へ共絶對御辭退申上候間不惡御承知被下度願上候
昭和五年八月
平町字鍛冶町
酒井一郎
後見人　酒井秀治郎

二葉印刷所
平町字仲町　電七三四